

「第3回 平成18年度環境行動計画アンケート調査」の結果概要

平成19年2月
 (社) 日本ツーバイフォー建築協会

[1] 調査概要

(1) 調査目的

- ① 会員各社及び協会本部が、会員各社の環境課題への取り組み意識及び実態を相互に共通認識として把握する。
- ② 「環境行動計画」のバージョンアップ（平成19年度版）検討のための基礎資料の収集。

(2) 調査方法

① 調査対象

当協会一種（A、B、C、D）正会員 521社

② 調査方法

FAXで配布し、FAXにて回収

③ 調査期間

平成18年9月26日から10月13日（回収は10月31日まで受け付け分を有効とした）

④ 回収率

		配布数	回収数	回収率
総数		521	165	31.7%
内訳	第1種A正会員	15	10	66.7%
	第1種B正会員	30	11	36.7%
	第1種C正会員	170	68	40.0%
	第1種D正会員	306	76	24.8%

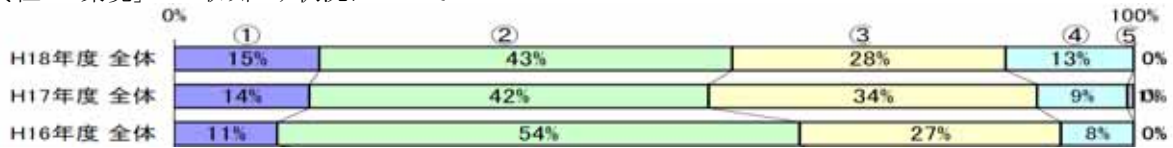
<参考>

平成17年度	529	152	28.7%
平成16年度	534	161	30.1%

[2] 「環境」への取組に関する基礎的な情報

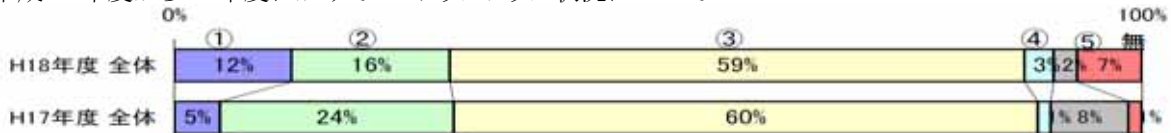
会員の「環境」に対する取り組み姿勢及び「環境行動計画」を通じて目標項目のステップアップ状況などを聞いた。

(1) 貴社の「環境」への取り組み状況について



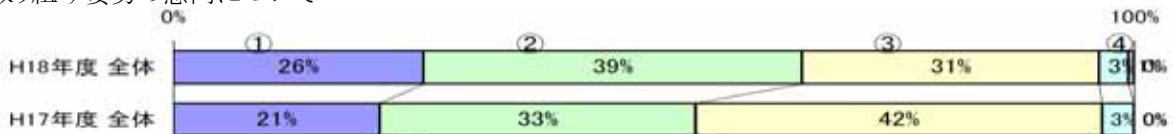
- 平成18年度における会員各社の「環境」への取り組みを聞いたところ、①「全社員が一丸となって積極的に取り組んでいる」は15%で、前年度に比べて1ポイント上回っている。②「おおむね全社員が関心を持って対応している」は43%で、こちらも前年度比で1ポイント上回った。これらを合わせると58%に達し、約6割が全社員が関与して「環境」に取り組んでいるといえる。
- どちらかというと消極的な、③「社員の一部分が関心を持って対応している」は28%で、前年度比6ポイント減。
- ④「あまり関心を持って対応をしていない」は13%で、前年度比4ポイント増となっている。
- ①②③を合わせると86%になり、約9割が「環境」に関心を持っており、「環境」に対する認識が高いことが伺える。

(2) 平成17年度から18年度にかけてのステップアップ状況について



- ①「多くの項目でステップアップを図った」が12%（前年度比7ポイント増）、②「一部の項目でステップアップを図った」が16%（同8ポイント減）、③「前回と同程度」59%（同1ポイント減）で合わせると87%（同2ポイント減）に達している。
- ①が7ポイント増と多くの項目でステップアップを図った会員が増えたが、①②③の合計では2ポイント減とほぼ前年度と横ばいとなっている。④「目標を下げた」3%、⑤「その他」2%。

(3) 取り組み姿勢の意向について



- 環境問題に関する取り組みについて、①「すでにアピールしている」が26%（前年度比5ポイント増）、②「今後アピールする意向がある」が39%（同6ポイント増）と、自社の取り組み姿勢を報告書やホームページでアピールする傾向が強くなってきている。③「何ともいえない」31%、④「アピールする意向はない」3%、

[3] 取り組み状況、主要項目の解説

(グラフの見方 ○:現在、実施している △:今後、計画している ×:会社として特に意識した取り組み計画はない)

1. 省エネルギー化の推進

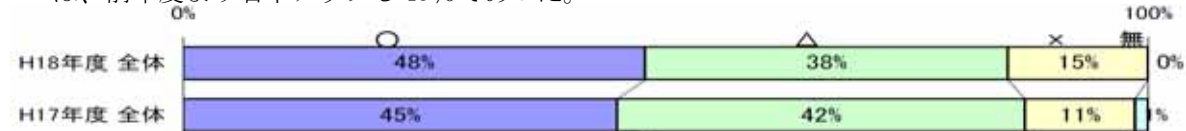
- 1) 新規に供給するツーバイフォー住宅は「次世代省エネルギー基準」(性能表示制度に定める等級4相当)の構成比率を向上させる。

「次世代省エネ基準」をクリアしたツーバイフォー住宅を供給している会員は、全体で48%、年々アップしてきている。



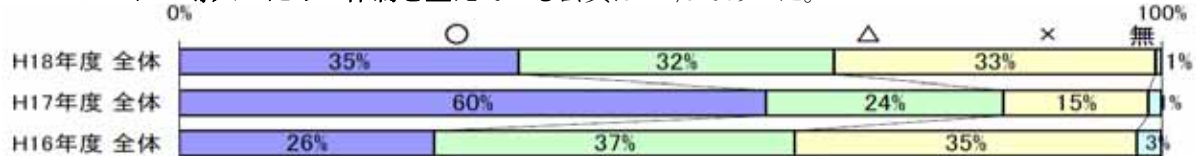
- 2) エネルギー効率の高い住宅設備機器、照明器具を採用する。

エネルギー効率(CO2削減)の高い住宅設備機器、照明器具を選択し、ユーザーに薦めている会員は、前年度より若干アップし48%であった。



- 3) 太陽光発電および太陽熱高度利用システムの積極的な導入を図る。

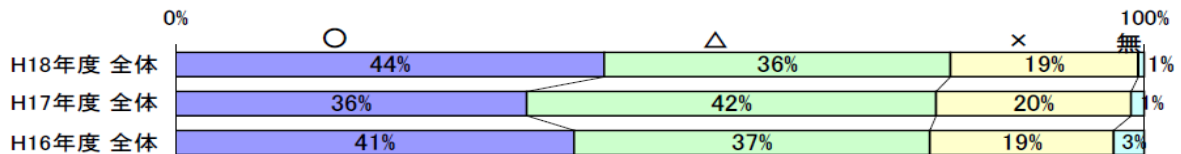
システム導入のための体制を整えている会員は35%であった。



2. 室内空気質対策の徹底

- 1) 住宅性能表示制度に定める「空気環境」について最高等級相当の住宅を普及させる。

性能表示制度の定める「空気環境」の最高等級を選択したツーバイフォー住宅を供給している会員は、44%であった。



3. 産業廃棄物の排出量削減と適正処理の推進

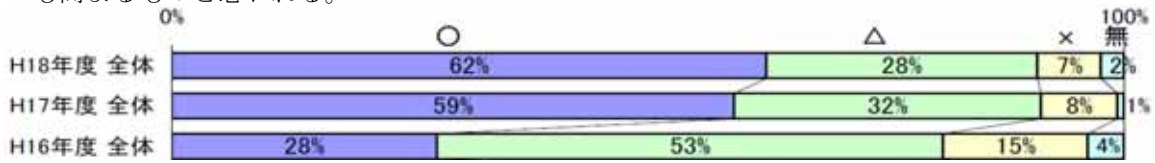
- 1) 現場に極力、産業廃棄物となる可能性のあるものを持ち込まない。

部資材のコンポーネント化やパネル化を積極的に導入している会員は、47%で前年度比5ポイント増であった。傾向としてはコンポーネント化、パネル化により極力現場から産業廃棄物を出さないという意向がみられる。



2) 産業廃棄物の発生抑制とリサイクルに努める。

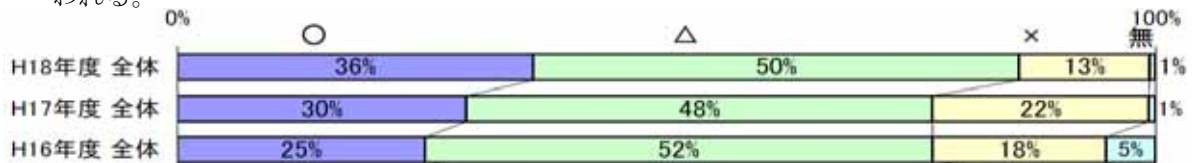
資材を有効利用するよう努めている会員は、62%で、一貫して実施率が伸びている。この傾向は今後とも高まるものと思われる。



4. 良好な地域環境の形成と維持

1) ツーバイフォー住宅の基本性能については、長寿命化を目指した耐久性の高いものとする。

性能表示制度に定める「劣化対策」、「維持管理対策」の最高等級を選択したツーバイフォー住宅を供給している会員は、36%で実施率は年々上昇している。今後ともこの傾向は高くなっていくものと思われる。



2) メンテナンス、リフォームを積極化させる。

適切なリフォームをユーザーに薦めている会員は、52%で年々実施率をあげている。



5. 環境行動の活性化

1) 会員相互で情報交流を行い、環境行動目標を推進する。

他会員と連携した環境行動を実行している会員は、2%であった。だが、今後取り組みたいという意向は強くなってきている。



2) カナダ、アメリカなどのツーバイフォー資材輸出国と国際協力し、グローバルな視点で環境問題を追求していく。

ツーバイフォー資材輸出国の森林資源と環境対策などに関する情報入手に努めている会員は、22%であった。

